

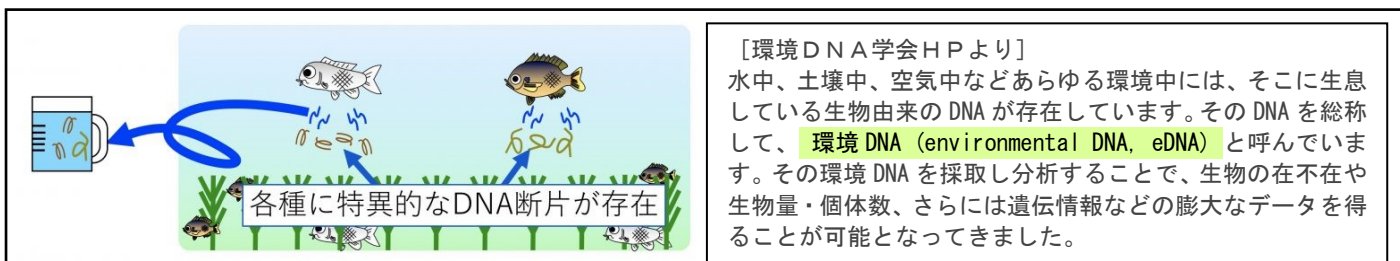
環境 DNA を用いた河川生物把握の可能性に関する

テーマ調査の実施について

1. 環境 DNA と多自然川づくり

国土交通省では、河川が本来有している生物の生息・生育・繁殖環境及び多様な河川景観を保全・創出する多自然川づくりを、全国のかわづくりの基本と定め推進している。したがって河川の生物生息情報は、多自然川づくりを行う際の最も基礎的かつ重要な情報である。近年、環境 DNA 分析技術の進展・普及に伴い、河川から採水し分析することで河川に生息する魚類を把握することが可能となっていることから、多自然川づくりを基本とする河川・ダム管理における環境 DNA 調査の活用の可能性を検討することにより、多自然川づくりの一層の推進を図る。

【参考】環境 DNA について



2. 調査目的、調査期間

多自然川づくりを基本とする河川・ダム管理における環境 DNA 調査の活用の可能性を検討することを目的とし、主として以下の2点について検討を進める。なお、調査期間は令和元年から概ね5年程度を想定している。

① 魚類の生息適地を踏まえた多自然川づくりの推進

直接採捕や環境DNA調査を組み合わせることにより取得した魚類データについて、調査区間の魚類生息地との関係を整理・検討する。

② 環境DNA調査手法検討

河川・ダム湖における環境DNA調査の採水地点の選定の考え方や採水-分析・解析に至る一連の手順の確立を図る。

なお、当該検討を進めるにあたり、河川水辺の国勢調査の手法のうち、「テーマ調査」の枠組みを活用する。

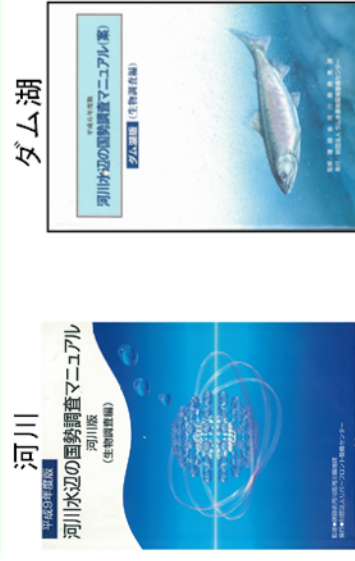
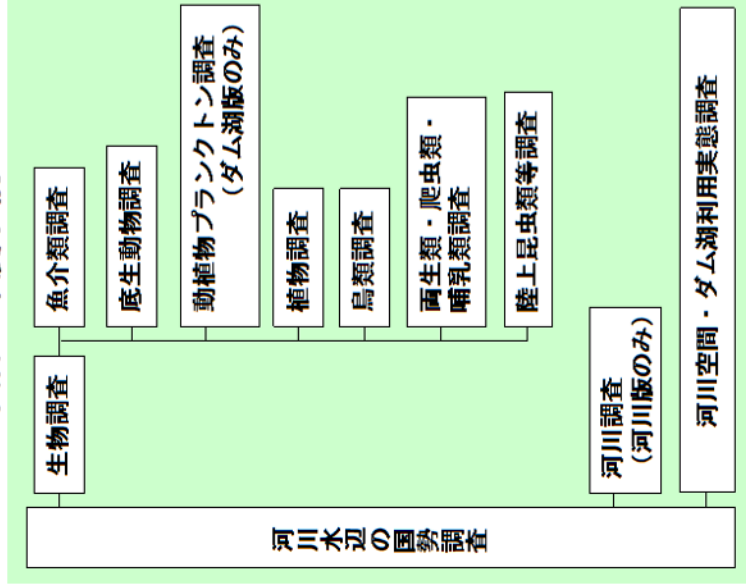
【参考】「テーマ調査」(H28年度版 水国マニュアルより)

【河川版】 河川環境の整備と保全を適切に推進するうえで解明・解決が必要な課題に関する基礎情報を収集整備するための調査

【ダム湖版】 生物に配慮した適切なダム管理を推進するために、状況把握、解明・解決が必要な全国的な課題について詳細に把握するための調査

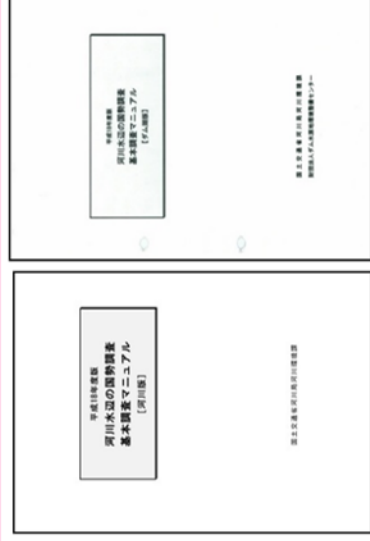
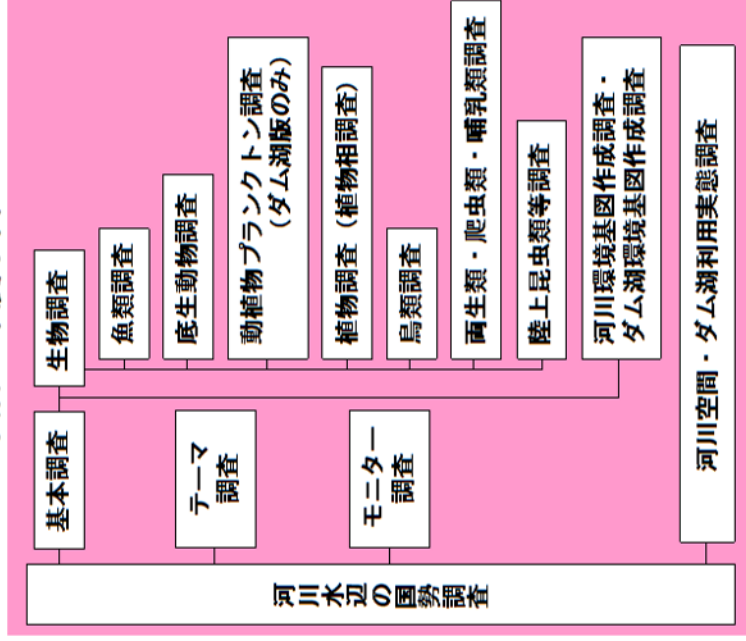
河川水辺の国勢調査の調査体系

平成17年度以前



H9年版マニュアルを適用
H7年版マニュアルを適用

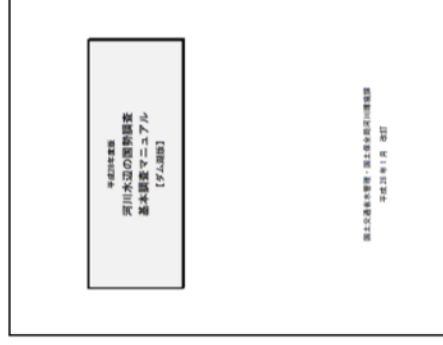
平成18年度以降



H18年版マニュアル
(河川版・ダム湖版) を適用

現在

(平成28年度以降)
調査体系に変更はない



H28年版マニュアル
(河川版・ダム湖版) を適用